

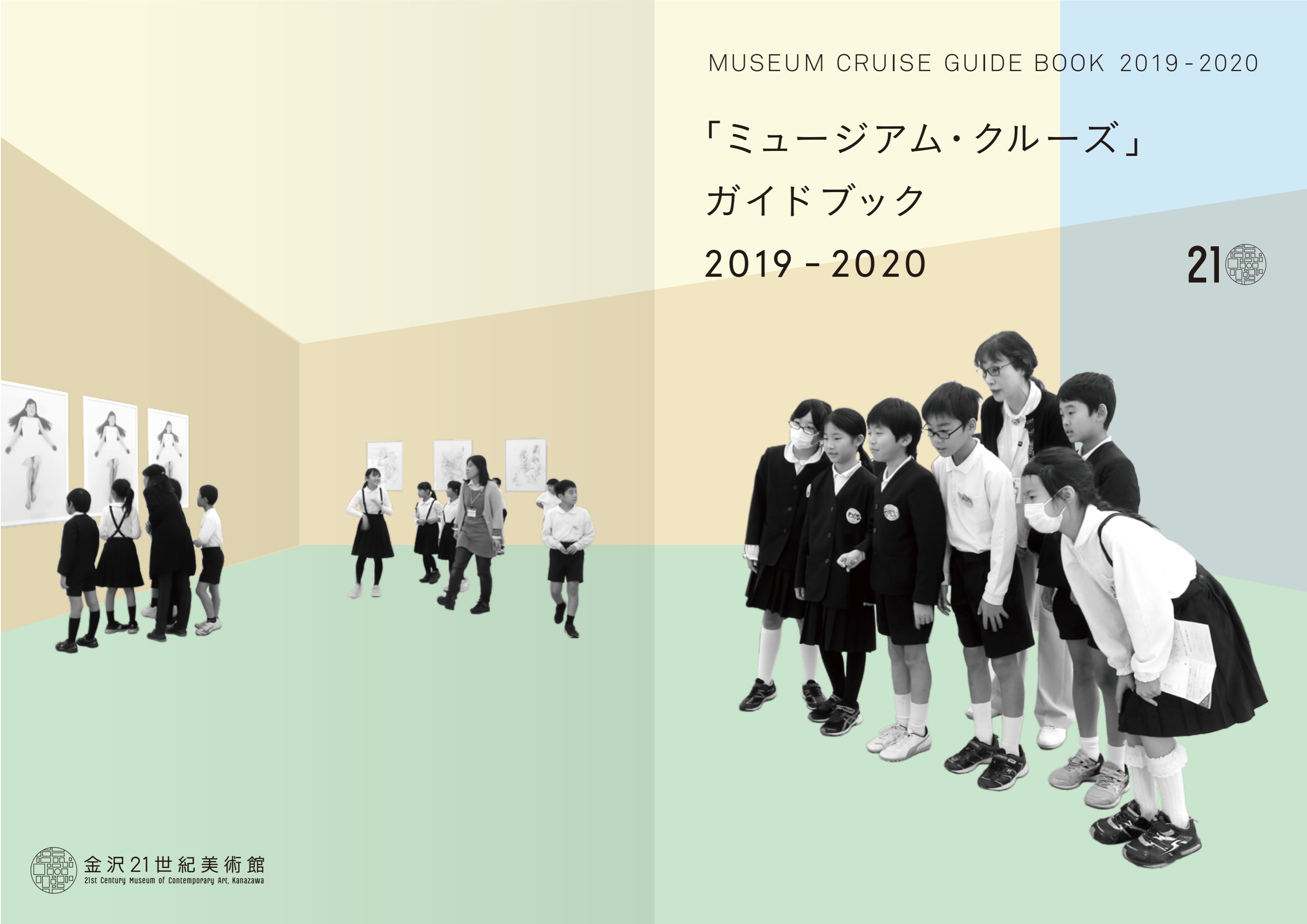
MUSEUM CRUISE GUIDE BOOK 2019-2020

「ミュージアム・クルーズ」

ガイドブック

2019 - 2020

21 



金沢21世紀美術館
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

ようこそ！ 金沢21世紀美術館へ
「ミュージアム・クルーズ」でつくる
豊かな時間のために

金沢21世紀美術館はミッションの一つに「子どもたちとともに、成長する美術館」を掲げています。そこには未来を生きる子どもたちが五感で学ぶことができる美術館でありたいということはもちろんのこと、子どもたちとともに美術館に集う人々も成長できるようにという願いが込められています。

子どもたちが美術館で見て、感じて、考える「ミュージアム・クルーズ」はまさに「子どもたちとともに、成長する美術館」を体現するものです。このプログラムは学校の先生や作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」、美術館スタッフが協働し、実現しています。

本書は2019年度のプログラム内容や実現に向けた準備や連携を紹介するものです。また、子どもたちの活動風景や「まるびいへお手紙を書こう」というアンケートに書かれた感想やイラストをまとめたポスターを付録にしています。本書とポスターが学校の先生や子どもたち、クルーズ・クルーにとって美術館を学びの場として活用するヒントになれば幸いです。

「ミュージアム・クルーズ」とは？

概要

金沢21世紀美術館は、活動の指針のひとつに「子どもたちとともに成長する美術館」を掲げています。その一環として2004年の開館時に「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」を実施し、金沢市内の小中学生約4万人が美術館を訪れました。この経験を活かし、2006年より金沢市内の小学校4年生を学校ごとに美術館に招待するプログラム「ミュージアム・クルーズ」を継続して行っています。「ミュージアム・クルーズ」は、子どもたちが少人数のグループでコレクション展を鑑賞し美術館を散策することで、感じる心を養い、地元の美術館に慣れ親しむ機会を生み出します。金沢市教育委員会や作品鑑賞プログラム・メンバーの「クルーズ・クルー」など様々な方の協力のもと、「金沢で生まれ育った子どもはみな、大人になる前に美術館に行ったことがある」という社会環境をつくります。

2019年度データ

期間：2019年10月23日(水) - 12月19日(木) /
2020年2月4日(火) - 2月14日(金)のべ37日間実施
参加：金沢市内の小学校や特別支援学校 59校
4,176名（内訳：児童 3,970名 + 引率 197名）
作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」65名
主催：金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]
共催：金沢市教育委員会
助成：金沢ライオンズクラブ

「3つの出会い」が子どもたちを待っています

まるびい

「まるびい」とは「まるいびじゅつかん」である金沢21世紀美術館の愛称です。来館中、子どもたちはユニークな建築空間を体感します。

現代アート

子どもたちは「コレクション展」を通じて同時代の様々な作品と接し、「コミッションワーク」と呼ばれる建物と一体化した恒久展示作品ともふれあいます。

クルーズ・クルー

「旅の仲間」の意味を持つ作品鑑賞プログラム・メンバーは、子どもたちが安全に活動し、気づきあえるよう、一緒に過ごします。

目的

美術館における作品鑑賞を通じて

“感じる心”を養う

- ・金沢21世紀美術館とコレクションを身近に感じ、大切に思う心を育てる
- ・世界のアーティストの様々な発想と表現に五感と身体全体で出会い、触れ合うことによって感受性、創造性、自主性、思考力、表現力を育てる
- ・色々な感じ方、見方、考え方、表現の仕方があることを知り、他の人の気持ちや考えを思いやる想像力とコミュニケーション力を育てる
- ・アート(美術)が、世界の状況、社会の動き、情報、科学、文学、音楽、ダンス、演劇、人と人との関係や毎日の暮らしに深い関係をもっていることを知り、幅広い視野で学ぼうとする意欲や態度を育てる
- ・公共の空間でマナーを守りながら自由に楽しむ力を育てる

美術館における“子どもの鑑賞活動”を

継続的に実施する

- ・美術館と学校による協力関係の継続・強化
- ・美術館における体験と、学校における授業との有機的な連携の推進

2019年度 年間スケジュール

ミュージアム・クルーズの1年間の流れを2019年を例に紹介します。

	2019年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年	1月	2月	3月
学校の動き			第一回検討会*1		会場事前視察*2 (10月～1月の計8回)	学校来館 (10/23、12/19)				第二回検討会 学校来館 (2/4、2/18)	来年度の参加打診 来年度の日程通知
クルーズ・クルーの活動				クルーズ・クルー説明会・研修1	研修2 研修3			展示替え研修		クルーズ・クルー解散式	
美術館の動き		「美術館がきっともっと面白くなる10のレッスン」*3							改修工事のため休館 12/20、2/3	「現在地・未来の地図を描くために」*2 2/4	

検討会*1

子どもたちが美術館で安全に有意義な活動ができるように、金沢市教育委員会が推薦する検討委員の小学校教諭と美術館のスタッフがプログラムの内容を検討・監修しています。

検討事項例：ガイドマップの内容について、会場事前視察について、記録物について

会場事前視察*2

子どもたちの来館前に、安全かつ有意義な美術館の訪問のために学校の先生と美術館スタッフが一緒に会場や作品を確認します。

対象：子どもたちを引率する予定の先生
内容：来館に際しての概要説明と諸注意案内、ガイドマップ、紹介DVD(p.8)の確認と持ち帰り、コレクション展の観覧と意見交換、子どもたちの活動場所の確認、学校ごとのグループ数や時間などの調整

「美術館がきっともっと面白くなる10のレッスン」*3

美術館・鑑賞・コミュニケーション等について学ぶ講座を通年で開催。「ミュージアム・クルーズ」が活動していない時期にも学び、交流する機会となります。一部のレッスンは「クルーズ・クルー」の研修として必修となります。

1日の流れ

午前	午後	
9:15	13:00	クルーズ・クルー集合、打ち合わせ 来館する学校の情報や当日の館内の状況などを共有します。また、作品の鑑賞のポイントを話し合います。
↓	↓	
9:45	13:15	子どもたち到着、全体挨拶 上着などの荷物がある場合は、集合場所でお預かりします。トイレを済ませたら、グループごとに整列します。美術館スタッフから「ミュージアム・クルーズ」について館内の約束や集合時間などについてお話をします。
↓	↓	
10:00	13:30	クルーズ・クルーとコレクション展を鑑賞 (グループ行動約60分) グループごとにクルーズ・クルーと挨拶をして展示室へ出発。作品を見て、感じて、話し合い、子どもたちの意見をクルーズ・クルーが引き出します。クルーズ・クルーとのグループ行動の最後には、ガイドマップを使ってこれまでの時間をふりかえり、自由時間の過ごし方を確認します。
↓	↓	



11:00	14:30	子どもたちだけで館内や広場を散策 (自由時間約30分) 自由時間の確認ができたグループから、子どもたちだけの時間になります。館内の交流ゾーンや広場を含めて見て回ります。クルーズ・クルーは子どもたちを見守り、時間や道の案内をします。
↓	↓	
11:30	15:00	再集合、全体挨拶 集合場所に再度集まります。子どもたちが感想を発表したり、質疑応答の時間をとります。
↓	↓	
11:40	15:10	子どもたち出発 クルーズ・クルーに見送られ、子どもたちは美術館を出発します。
↓	↓	
11:45	15:15	クルーズ・クルー振り返り会 子どもとの活動で気がついたことを共有し、次回の活動へとつなげます。
↓	↓	
12:00	15:45	クルーズ・クルー解散

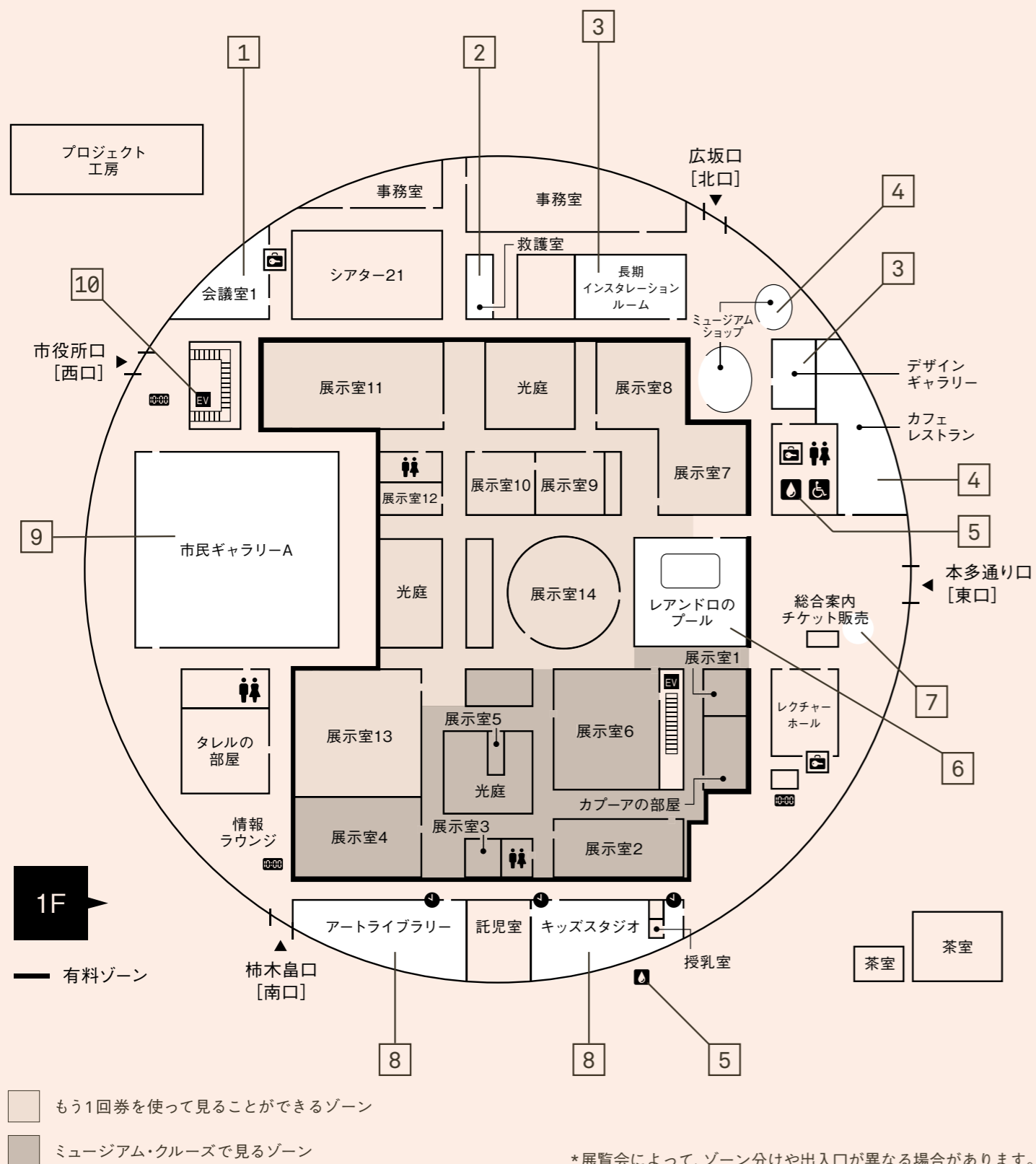


*上記は標準的な時間配分で、各学校の状況に応じて調整をしています。お気軽にご相談ください。

活動場所について

ミュージアム・クルーズでは館内全体を見て回ります。

活動場所のポイントを紹介します。



* 展覧会によって、ゾーン分けや出入口が異なる場合があります。

1 会議室1

クルーズ・クルーの集合場所です。

2 救護室

具合が悪い際に体を休められます。

3 長期 インсталレーションルーム / デザインギャラリー

無料で見られる展覧会です。自由時間に見ることができます。

4 ミュージアム・ショップ / カフェレストラン

ミュージアム・クルーズの児童が入ることはできません。

5 水飲み場

給水機があります。

6 レアンドロのプール

自由時間に見ることができます。

7 本多通り口 [東口]

雨天時は入り口近くにクラスごとに傘立てを用意します。

8 キッズスタジオ・アトライブラリー

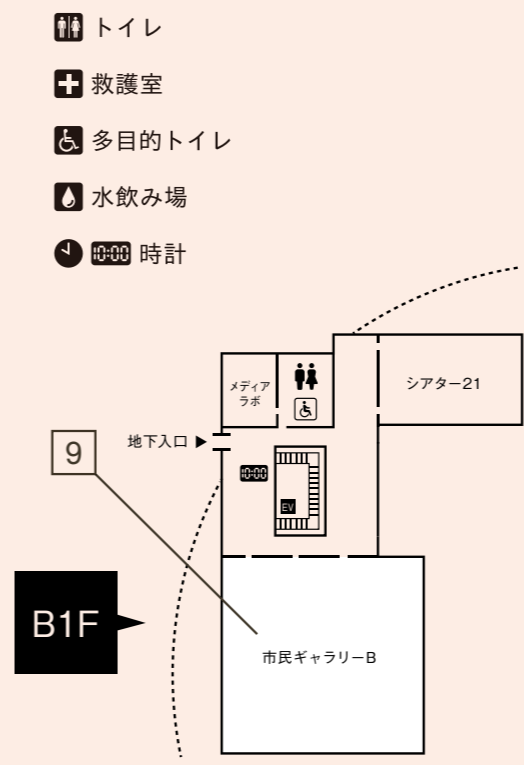
自由時間に入室できます。

9 市民ギャラリーA・B

貸し施設で、その時々異なる展覧会を開催しています。無料のものは自由時間に見ることができます。

10 ガラスのエレベーター

油圧式で動く透明なエレベーターです。各校のご判断で児童が乗るかを選択いただけます。



「ミュージアム・クルーズ」のツール

学校や美術館、家庭でも活動についての理解を深められるようにツールを用意しています。

ガイドマップ

子どもたちが主体的に鑑賞を行う手助けとなるツール。活動範囲やマナーの確認ができるほか、作品を鑑賞するヒントとしても利用できます。折りたたんで小学4年生の手やポケットにも収まりやすいサイズ（10.5cm×10cm）で制作されています。会場事前視察時に、学校へと持ち帰るか来館日当日に美術館で渡すかを選べます。

活用例 学校で：事前指導や来館後の振り返り

美術館で：ミュージアム・クルーズ 活動中の意見交換や現在地確認

家庭で：ミュージアム・クルーズの紹介や振り返り



2019年度デザイン：菊地敦己事務所

外側：

館内地図、プログラム紹介と館内での約束、名前欄ともう1回券、無料で鑑賞できる場所や日の紹介、企画概要と外観写真、表紙

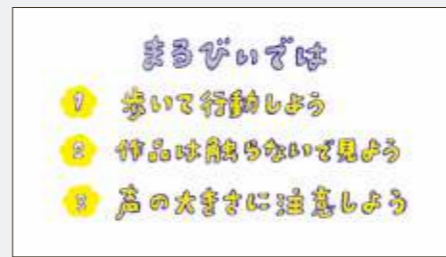


内側：

展示場所、作品別の見出し、作品写真、作家作品データを掲載

「ミュージアム・クルーズ」紹介DVD

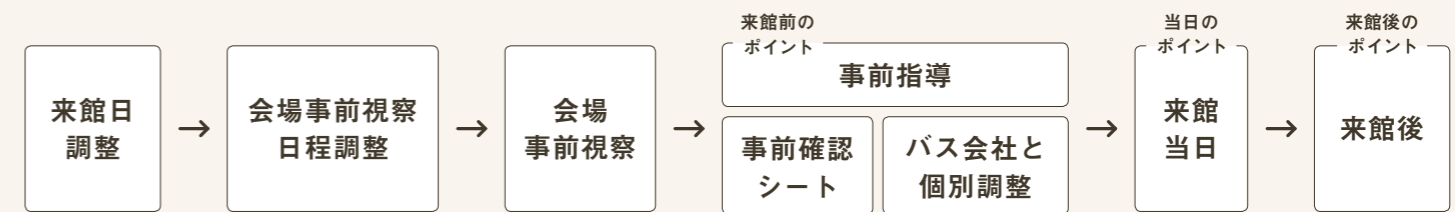
子どもたちへ美術館での活動内容や魅力を伝え、引率者が事前指導に役立てられるよう制作しました。2分半の短い映像は写真を用いてイメージが膨らむようになっています。



制作：金沢21世紀美術館 デザイン・編集：オフィスプランカ

来館に際して（先生へ）

来館までの流れ



来館前のポイント

- 子どもたちのグループを編成してください。
- ・グループ行動：1班8名程度… 会場事前視察時に人数をご相談します
- ・自由行動：小回りが利くよう、グループ行動の班を2つに分けることを推奨します
- 会場事前視察でお渡しする、事前確認シート・写真撮影の許諾書をご記入の上、FAXでお送りください。
- 学校での事前指導をお願いします。
- ・当日の活動の流れ
- ・活動場所
- ・美術館での3つの約束
 - 1、歩いて行動しよう
 - 2、作品にさわらないで見よう
 - 3、声の大きさに気をつけよう
- * 館内ラックや情報ラウンジのチラシは持ち帰らない

当日のポイント

- 子どもたちの持ち物と服装にご配慮ください。
- ・荷物預かりの受け渡しをスムーズにするため、軽装でお越しください。
- ・クルーズ・クルーが名前呼びかけられるよう、ネームを着用ください。
- ・館内は飲食不可です。水筒を持参される場合は外の芝生広場で飲んでください。館内の給水機も利用できます。
- 集合場所では、クラスごとに前に向かって左から1班2班……と整列してください。
- 全体挨拶前にお手洗いにいきたい児童がいないかご確認ください。
- 子どもたちの鑑賞風景の撮影を希望される場合は事前に申請のうえ、お渡しする許可証を身につけて撮影してください。
- 展示室にはB4以上の大きさの荷物を持ち込めません。先生のお手回品は100円返却式のコインロッカーをご利用ください。

来館後のポイント

- 来館時に子どもたちや学校関係者向けアンケートをお渡しします。参加後1週間を目安にメールかまたは郵便でお送りください。

よくある質問

- Q. 学校がバスの手配をする必要はありますか？**
 A. 美術館が一括で手配をしています。視察後から来館日までにバス会社から先生へ連絡がありますので乗降場所等の詳細について確認をしてください。
- Q. 子どもたちの様子を学級通信に載せても良いですか？**
 A. 作品の著作権保護の観点から、配布物には作品・作家名の記載と事前の美術館への校正をお願いします。詳細は会場事前視察で配布する写真撮影の許諾書をご覧ください。

学校での展開例

毎年、「ミュージアム・クルーズ」を学びの機会と捉えた様々な取り組みが各校で行われています。

今年度に行われた事例の中の一例をご紹介します。

図工

「作者の思い」に着目し、

対話的な鑑賞と主体的な創作をつなげる

兼六小学校 小林優哉先生

題材名：かなえるトランクで旅へ出よう

題材について：美術館の作品との出会い、作品には作者の思いがあることに気がつくことで、自分の思いを込める作品づくりに結びつけていく。

事前・事後

1. 鑑賞の視点をつくる

事前授業ではミュージアム・クルーズのガイドマップを使用しました。数点をピックアップして色、形、材料などから作者が作品に込めた思いを想像し、鑑賞の視点を持ちました。

2. 「ミュージアム・クルーズ」来館、鑑賞の振り返り

当日は技法や展示方法にも注目して鑑賞しました。友達やクルーズ・クルーと話し合うなかで考えが深まる様子も見られました。振り返りでは作者の思いがどんなところから伝わってきたかを考えたあと、自分たちも思いを込めた作品を作るべく自分の思いや願いを深掘りしました。

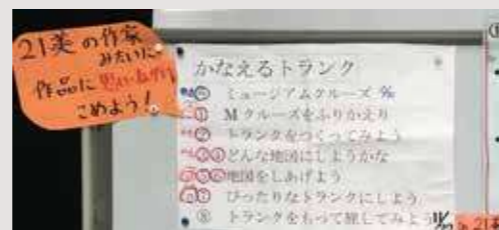
3. 地図づくり／トランク作り

自分の思いを叶える旅の地図とトランクを作りました。表現の工夫を参考作品からつかんでもらうことで色や形、構成を工夫して表せるようにしました。

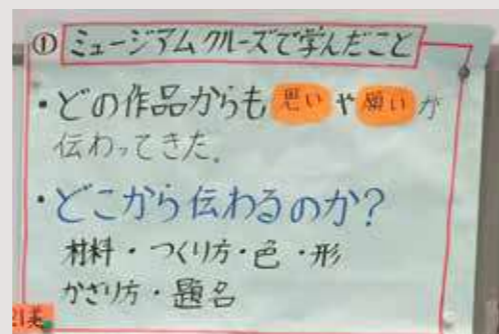
4. トランクと地図を鑑賞する

作品には思いがあって、材料や作り方を工夫して表していたことを確認しました。友達の作品を見て、思いを見つけて、伝え合いました。

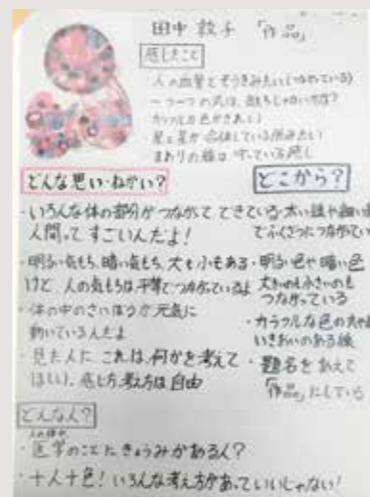
授業時間：8時間 + 課外



題材の流れ



来館後のふりかえりのポイント



作品を掘り下げてまとめた模造紙



作品例

子どもたちが作品を伝え合う様子

ブックトーク

事前

生活の中にあるアートについて本を通して考える

中央小学校(司書教諭 大谷志保先生)

題材名：アートってなんだろう？ ブックトーク

ミュージアム・クルーズでの来館の前に建築や現代アートについて本を使って関心を持ってもらいました。ユニークな建物が紹介された本を紹介し、まるびいにも出入り口がたくさんあって人が入りやすいようになっているように、建築には意図があることを想像してもらいました。また、現代アートではボクシングのグローブや三輪車でさえも道具になってしまうことも紹介しました。「まるをさがして」では児童に好きなまるを発言してもらいました。現代アートがはじまった頃の作品や美術館が本来どういった場所であるかも本をめくりながら伝えました。

授業時間：15分

生活単元学習

事前・事後

公共のマナーを守り、楽しく施設を利用する

金沢大学附属特別支援学校(村山智代先生)

題材名：ミュージアム・クルーズにいこう！

事前授業では、ミュージアム・クルーズの概要(いつなにをするのか、どのようなものがあるか)と3つの約束についてプリントで学びました。そして、9つの作品の写真を貼る「ミュージアム・クルーズ、み～つけたカード」を制作しました。また、ミュージアム・クルーズの後日に写真をみて、振り返りをし、クルーズ・クルーへの手紙を書きました。

授業時間：3時間



紹介された本

- たくさんのおふしぎ 2010年11月号
『中にはいってみよう』
葉山勉／文・写真 福音館書店
- 『コレでなにをする?』
大月ヒロ子／構成・文 福音館書店
- 『まるをさがして』
大月ヒロ子／構成・文 福音館書店
- 『世界のart図鑑』
レベッカ・ライオンズ エミリー・シュライナー／総監修 ポプラ社
- 『美術館ってどんなところ?』
フロランス・デュカトー／文 シャンタル・ベタン／絵 野坂悦子／訳 西村書店



クルーズ・クルーについて

概要

「ミュージアム・クルーズ」で美術館を訪れる子どもと作品を鑑賞し、美術館体験をサポートします。解説ボランティアではなく、旅の仲間として子どもたち同士の対話を促し、安全を見守ります。

応募条件

20歳以上の方／説明会・研修に全て参加できる方／月2回以上、学校対応可能な方／無償での活動を了承した方

2019年度 クルーズ・クルー（50音順、敬称略、65名）

阿部 和美、石山 雄大、今村 良栄、岩垣 豊、上野 真衣、鷗沢 一子、梅田 美枝子、遠藤 カヨ、大辻 尚美、大友 理視、大西 美樹子、大野 広輝、岡 加代、沖 由香子、表 洋樹、喜多久恵、串田 孝子、小々高久美子、小坂 孝志、小室 正子、紺谷 由香、柴田 実千代、清水 皓亮、正理 善寛、鈴木 豪、高井 ひとみ、高岡 幸子、高木 寿美子、高村 藤衛、高柳 好恵、武野 一雄、竹林 あおい、多長 桂子、塚本 浩子、寺尾 ユリ子、豊蔵 健夫、中戸 恭子、中西 勝之、中浜 淳、丹尾 明代、西川 正一、西 久美、西野 文子、仁歩 義晴、橋本 和栄、林 朋子、樋口 裕一、平尾 初美、福田 外喜子、松本 収子、三浦 靖子、湊 雅子、宮丸 慶子、宮丸 静夫、向井 淳子、村井 淑子、室住 茜、安田 玲子、八幡 陽子、山本 悦子、吉野 陽子、吉野 依子、六田 正紀、若林 久美子、和田 伸子



解散式にて

研修

子どもたちと出会う前に、クルーズ・クルーは研修として鑑賞や意見交換を行います。

研修例

- めあて
- ・クルーズ・クルーが「わたし」として展覧会に出会う
 - ・複数人で作品を見ることで様々な見方ができる体験をする
 - ・活動する際に周りの人も気持ちよくいられるような心配りを考える

- 内容
- ① 1人で展覧会を見る
 - ② 小グループで1つの作品を視点カードを使って話しながら見る
 - ③ 小グループでガイドマップを使いながら作品や会場を見る
 - ④ ふりかえり



研修の風景

2019年度 クルーズ・クルーの工夫

クルーズ・クルーは子どもたちとどのように過ごすかをひとりひとりが考え、子どもたちと出会うたびに臨機応変に対応をします。活動が終わった後には振り返りを行います。クルーズ・クルーの今年の発見や工夫の一部を「振り返りシート」からご紹介します。

- ・鑑賞する時のルールだけでなく、お年寄りや車椅子に道を譲ったりする事も大事だとあいさつをしたが、具合の悪い同級生がいた時に真っ先に教えてくれた。相手の思いやりを説く事も大事に行きたい。
- ・クルーズを始める前の自己紹介、それぞれ近ごろのマイブームなどを聞いたら、仲間にも知らせて、注意事項などが伝わりやすかった。
- ・みんなの話をよくきけるように、見る時間と話し合う時間を区別するように工夫した。
- ・できるだけ自由に周れるようになるべく細かな指示は出さないようにした。
- ・全部をみようとするのではなく、子供達の目の動きに従って話を進めていくと、何か新しいものを見つけていくのではないか。
- ・展示室を出たら必ず人数確認をもらった。すぐにちらばってしまうので、声が聞こえるところまで全員集まったら話をするようにした。
- ・今日は工芸の部屋では「好きな作品をさがしてネ」という前提で中に入ると、かなり集中して見ていました。
- ・丁度メンバー数が展示室と同数であったので、1人1室の中で作品を選定し、その作品について皆んなで話し合うことにした。
- ・(特別支援学校で)先回りしすぎない。行動も発言も、子どもを良く見てから。感想を話してくれなくても、何か感じて入るだろうから、無理強いせず話しかける。
- ・「ただの人の写真」とか「つまらない」とか言う子がいましたが、ちょっとしたことをほめてあげていたら、どんどんと想像したことを言ってくれて楽しかったです。
- ・感じてはいてもなかなか言葉にはできないという様子がみられたので、素材とか共通点とかこちらから出して見つけてもらう形にすると、話しやすくなったようだ。
- ・展示室2を自由に見て気づいたことを話してもらった時に、「これのどこが芸術なんだろう。」の一言があり、皆で芸術って？話し合えたところが今日の一番の収穫でした。
- ・3体並んだ陶器の人形の所では一番浮かれ踊っていた男子がポーズ。せっかくなので皆でポーズ。さて何の場面でしょうか？で楽しみました。
- ・話を聞いたり質問したりするときは腰をかがめて、同じ目線で目を見ながら1人1人と対話するようにしました。
- ・子どもたちの気づきになるべく耳をかたむけて言葉をひろったり、マップをもらってからどの展示室に戻るかを相談して子どもたちの意志で途中から先頭をお願いすることができました。
- ・作品を見ている時に、作品を見ている子どもの表情も観察してみると、作品毎に様々な顔を見せてくれました。この表情が気持ちを物語っているの、余裕があるときは気をつけて見て話のきっかけにできたらいいなと思いました。

「『みる』からはじまる、アートとコミュニケーション」

概要

金沢21世紀美術館は「美術館がきつともっと面白くなる10のレッスン」と題し、様々な分野で活躍する講師をお招きし、美術館や鑑賞、コミュニケーションについて学ぶためのレクチャーを行っています。今年度、クルーズ・クルーは研修の一環として京都造形芸術大学アートプロデュース学科学科長の伊達隆洋さんをお招きして鑑賞について考えた講座を受講しました。ここでは、レッスンのエッセンスをご紹介します。



鑑賞の本質と「みる」ことの難しさ

「アートは恋愛のようなもの。人と人の間に『恋』が生まれるように、作品と人の間に『アート』が生まれます。だから作品だけが存在してもアートは存在しない。みる人がいるからこそ、アートが生まれるんです。」冒頭で「鑑賞と観賞の違い」をクイズ形式で考えた後、伊達先生はアートを恋に喩え、「作品がアートなのではなく、人が作品を前にして生み出す問いや発想こそがアート」なのだとして定義しました。

そして、「答えのない状況を前に、根拠を見つけ、自分で問いをたて、そこからいくつもの解を引き出す力を身につける。自分とは異なる他者を理解し、認める。そんな生きる力を育むために、ひとりではなく複数人でアートを鑑賞することが役に立つ」と伊達先生は続けました。

しかし、他者とともに作品をみる上で重要になる「みる」「かんがえる」「はなす」「きく」という基本的な4つの能力は誰でも簡単にできるようでいて、実は難しいことが続く講義で次々と明かされました。

例えば、「みる」ことを考えるパートでは、ひとつの図像が複数の図像に解釈できてしまう現象や、経験によって見ているものが脳によって補正されてしまう現象をスライドを通して実際に体験しました。「かんがえる」ことのパートでは、自分がみているものは他の解釈の可能性をみないようすることで成り立っていることを、「はなす」ことのパートでは、右脳で感じていることを左脳が省略

するせいでみえているものが適切に言語化されないことを、「きく」ことを考えるパートでは、白黒の牛の画像やダンサーのシルエットが回転する映像をみながら、他の人の言葉によって自分の見え方が実際に変化することを体験しました。その4つをつなぐことで、対象についての観察と理解を深めると同時に、そこに映る自分の見方の偏りや価値観の理解を深めることができることを学びました。

その後は、「きく」に焦点をあてたワークを小グループで行いました。参加者同士が話をしながら「相手が聞きたいことを本当に汲み取っているか」を意識させるセッションは、いかに普段の会話が自分の都合の良いように解釈しているかを浮き彫りにするものでした。

最後に、伊達先生がファシリテーター、参加者が鑑賞者となって全員で一つの作品をスライドで見ながら対話型鑑賞を行いました。スライドから想像した素材や手触り、作品を見て生まれた感情など様々な視点からの参加者の発言を伊達先生が受け止め、つなげて、まとめてくれました。対話の後半に、実は作品が飴でできているという情報を伊達先生が伝えると鑑賞はさらに深まり、複数人の視点で掘り下げていくおもしろさとファシリテーターの力を実感する時間となりました。

「美術館の来場者が1作品をみる時間はどれくらいだと思いますか？」

冒頭に伊達先生に問われた際、多くの参加者たちは1分から5分と回答しました。



しかし、答えはなんと「平均10秒前後」。その一方でキャプションは30秒から1分もかけて見ているそうです。つまり、多くの人は美術館に作品を見に行くのではなく「美術館に説明を読みに行く。ついでに挿絵をみる」状況なんだとか。作家がつくった作品より、美術館の職員によるキャプションがじっくり読まれている。言われてみると、そのような光景はあちらこちらの美術館で見られるのではないのでしょうか。「日本には作品はたくさんあるが、まだアートはあまり生まれていない」という伊達先生の言葉が、実感をもって迫ってきます。

大人になって知識が増え経験を積むほどに、人は対象をきちんとみることができなくなったり、それまでの価値観に囚われてしまいがちです。しかし、常に別の可能性を問うアートという領域では、そこから抜け出して、目の前の世界や人や作品のより豊かな可能性や意味を発見する力を育むことができます。そんな「鑑賞」が秘める可能性や、美術館が社会の中でも持つ役割や機能を広い視点から改めて考える貴重な機会となりました。

(2019年10月18日[金]・19日[土] 13:00~16:00 / 金沢21世紀美術館 シアター21にて) 構成:高橋洋介、森 絵里花

【講師紹介】

伊達 隆洋(だて たかひろ)
京都造形芸術大学アートプロデュース学科学科准教授学科学科長、アート・コミュニケーション研究センター研究員。人間科学・臨床心理学を専門領域とし、他者との対話が人にもたらず変化について研究している。対話型鑑賞プログラム ACOP (Art Communication Project) を活用したプログラム開発や実践を行なっている。(所属等は2020年3月時点)



【ACOP(エイコップ)とは?】

「みる・考える・話す・聴く」の4つを基本とし、複数人で対話を介して作品鑑賞を行うプログラム。ニューヨーク近代美術館で研究開発された対話型鑑賞プログラムを源流とし、京都造形芸術大学で発展を遂げた。美術史などの知識だけに偏らず、鑑賞者同士のコミュニケーションを通して作品を読み解いていく。ACOPを活用した実践は美術館・博物館や学校教育にとどまらず企業内人材育成など多岐にわたる。

もっと学びたい方におすすめの本

どこからそう思う?
学力をのばす美術鑑賞 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ

フィリップ・ヤノウィン / 著
京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター / 翻訳
淡交社 2015年

展覧会概要

開館15周年記念 現在地：未来の地図を描くために [2]

会期：前期 2019年10月12日(土)～12月19日(木)

後期 2020年2月4日(火)～4月12日(日)

会場：金沢21世紀美術館 展示室1～6、長期インスタレーションルーム、交流ゾーン

出品作家

安部泰輔、エル・アナツイ、青木克世、ベンアンドセバスチャン、マチュー・ブリアン、クリス・バーデン、スコット・チェイスリング、
ピピン・ドライステイル、ヤン・ファーブル、ヤン・フィシャル、シルバ・グプタ、橋本雅也、蓮田修吾郎、島山耕治、葉山有樹、
ホンマタカシ、家住利男、猪倉高志、板橋廣美、泉太郎、上出長右衛門窯+丸若屋、上出恵悟、金氏徹平、ロン・ケント、北出不二雄、草間彌生、
桑田卓郎、久世建二、イ・ブル、前史雄、ボディル・マンツ、アナ・メンディエータ、見附正康、ミヤギフトシ、宮崎寒雫、毛利悠子、
中川衛、中川幸夫、中村錦平、中村康平、中村信喬、中村卓夫、中野孝一、奈良美智、檜原寛子、ヴァルター・ニーダーマイヤー、西山美なコ、
野口春美、大場松魚、小谷元彦、扇田克也、十一代大樋長左衛門(年雄)、大樋陶冶斎(十代長左衛門/年朗)、沖潤子、奥村浩之、マイケル・ロウ、
トーマス・ルフ、清水晃、塩田千春、曾根裕、ルパート・スパイラ、須田悦弘、竹村友里、田中敦子、田中信行、田嶋悦子、寺井直次、
照屋勇賢、三代徳田八十吉、富本憲吉、塚田美登里、「雲龍庵」北村辰夫、山村慎哉、ヴラディミール・ズビニオヴスキー (アルファベット順、74組)

金沢21世紀美術館 維持会員

SANAA事務所

米沢電気工事株式会社

ナカダ株式会社

金沢市農業協同組合

株式会社福光屋

ヨシダ宣伝株式会社

金沢信用金庫

株式会社総合園芸

西日本電信電話株式会社 金沢支店

株式会社ヤギコーポレーション

株式会社北國銀行

一般社団法人金沢建設業協会

ニッコー株式会社

医療法人社団健真会 耳鼻咽喉科安田医院

株式会社メープルハウス

株式会社マイブックサービス

公益財団法人金沢勤労者福祉サービスセンター

株式会社浦建築研究所

金沢中央農業協同組合

株式会社グランゼーラ

まつだ小児科耳鼻咽喉科クリニック(能美市)

公益財団法人高岡市勤労者福祉サービスセンター

アルスコンサルタンツ株式会社

しま矯正歯科

協同組合金沢問屋センター

一般社団法人MuU

三谷産業株式会社

スーパーファクトリー

株式会社エイブルコンピュータ

株式会社中島商店

株式会社橋本確文堂

ヨシダ印刷株式会社

株式会社北都組

金沢市一般廃棄物事業協同組合

金沢商工会議所

株式会社竹中工務店 北陸営業所

一般社団法人石川県鉄工機電協会

大村印刷株式会社

石川県勤労者文化協会

前田印刷株式会社

株式会社うつのみや

公益社団法人金沢市医師会

連合石川かなざわ地域協議会

株式会社金沢環境サービス公社

医療法人社団竹田内科クリニック

株式会社日本海コンサルタント

株式会社アイ・オー・データ機器

石川県中小企業団体中央会

能登印刷株式会社

株式会社金沢舞台

北陸名鉄開発株式会社

高桑美術印刷株式会社

株式会社浅田屋

北菱電興株式会社

株式会社四緑園

株式会社橋本清文堂

カナカン株式会社

株式会社かゆう堂

株式会社バルデザイングループ

石川県ビルメンテナンス協同組合

横浜エレベータ株式会社

株式会社ほくつう

株式会社グッドフェローズ

日本海警備保障株式会社

株式会社山越

田中昭文堂印刷株式会社

株式会社金沢商業活性化センター

株式会社加賀麩不室屋

べにや無何有

日本ケンブリッジフィルター株式会社

めいてつ・エムザ

日機装株式会社

横河電機株式会社 金沢事業所

有限会社芙蓉クリーンサービス

株式会社インプレス 美術事業部

株式会社甘納豆かわむら

ArtShop 月映

株式会社アドバンス社

金沢ターミナル開発株式会社

株式会社計画情報研究所

株式会社ビー・エム北陸

一般社団法人石川県繊維協会

株式会社大和

アムズ株式会社

株式会社あまつぼ

ヨシダ道路企業株式会社

株式会社金太

イワタニ北陸株式会社

末広フーズ株式会社

北陸スカイテック株式会社

辻商事株式会社

アキュテック株式会社

森平舞台機構株式会社

アズビル株式会社

北陸電話工事株式会社

株式会社五井建築研究所

金沢セメント商事株式会社

ホクモウ株式会社

医療法人社団映寿会

鯨みつ川

株式会社山田写真製版所

株式会社ユニークポジション

株式会社ロフト 金沢ロフト

株式会社鍛冶商店

株式会社東急ハンズ 金沢店

坪田聡

林橋舎アップルカンパニー

アイバプリッシング株式会社

株式会社ホクスイ

山田知明

(2020年3月現在)